

<調査報告>

カナダビクトリア大学における大学構成員の能力開発システムについて —プロフェッショナル・ディベロップメントに着目して—

遠藤 美由樹¹

本稿は、カナダのビクトリア大学での3週間の職員海外研修制度による語学研修プログラムへの参加機会を活かし、現所属で取り組んでいるFD（ファカルティ・ディベロップメント）をテーマに現地等で調査した結果を報告するものである。具体的には、聞き取りや大学のWebサイトの調査を通して、ビクトリア大学のFDがどのような仕組みになっているか、公開されている情報を集めた結果、FDという名称ではなく、PD（プロフェッショナル・ディベロップメント）として運用されていること、広義のFDとして、組織的な取り組みであること等がわかった。また、ビクトリア大学のPD研修プログラムへの参加者から研修がどのように効果があったかどうかについて確認した。ただし、調査の対象数が不十分であり、課題が残るものであった。しかしながら、大学が今後政策的に義務化されたFDやSDをどのように実質化していくかにあたって、参考となる点、学ぶべき点をいくつか見出すことができた。

キーワード：FD（ファカルティ・ディベロップメント）、PD（プロフェッショナル・ディベロップメント）、コンピテンシー、研修プログラム、ビクトリア大学

1. はじめに、研修参加の動機

2023年8月8日から25日の約3週間、本学専任職員を対象とする夏期海外研修制度を利用し、カナダブリテッシュコロンビア州にあるビクトリア大学のイングリッシュランゲージセンター University of Victoria, English Language Centerが提供するSummer Language and Culture Programに参加した。コロナ禍のため、3年ぶりに職員研修制度の募集の再開となったが、同様にビクトリア大学でもコロナ禍ではオンラインのプログラムを提供していたが、対面によるプログラムは3年ぶりの再開であった。しかし、現地に赴いて驚いたのは、3年間のブランクが影響したのか、ビクトリア大学では過去最大人数を一度に受け入れ、特に8月は、500名以上の短期プログラム参加者があり、その9割以上が日本の大学からの短期語学実習プログラム参加者であった。大学によって異なるが、1単位から2単位の単位認定を伴う短期語学留学プログラムであった。実は、私がこのプログラムに参加を決めたのは、午後から開講されていた、Foundations of Business Englishにまず着目し、日常会話レベルだけでなく、幅広い場面で英語が使える力をつけたいと思ったからである。加えて海外の大学の教

育制度を知りたく、大学併設の語学学校から探す必要があった。しかし、残念ながら、参加直前にFoundations of Business Englishについては、募集定員に満たず、開講されなかったのである。同プログラムだけを選択して参加申し込みをすることはできなく、あくまで、Summer Language and Culture Programへの参加者に向けたオプションとして、Foundations of Business Englishを申し込んだが、開始日の約1週間前にメールで取りやめの連絡を受けた。

今年度の職員夏期海外研修制度は、自由に行先やプログラムを選定できるマイプランの募集であったが、わたしは、プログラム参加にあたって2つの目標を設定した。一つは、英語圏で、自分の英語学習の学習意欲をさらに高め、英語4技能のうちスピーキングのレベルを一步上げたいというものである。そして、この研修制度の参加者の義務として、高等教育フォーラムへの投稿を行わなければならなかったため、いま所属で取り組んでいる北米地域が発祥のFD（ファカルティ・ディベロップメント）について、カナダの一つの大学の事例として、どのような研修プログラムが提供され、どのような仕組みであるかを調査することを二つ目の目的とした。本稿は後者の目的達成のためである。

¹ 京都産業大学 教育支援研究開発センター事務室

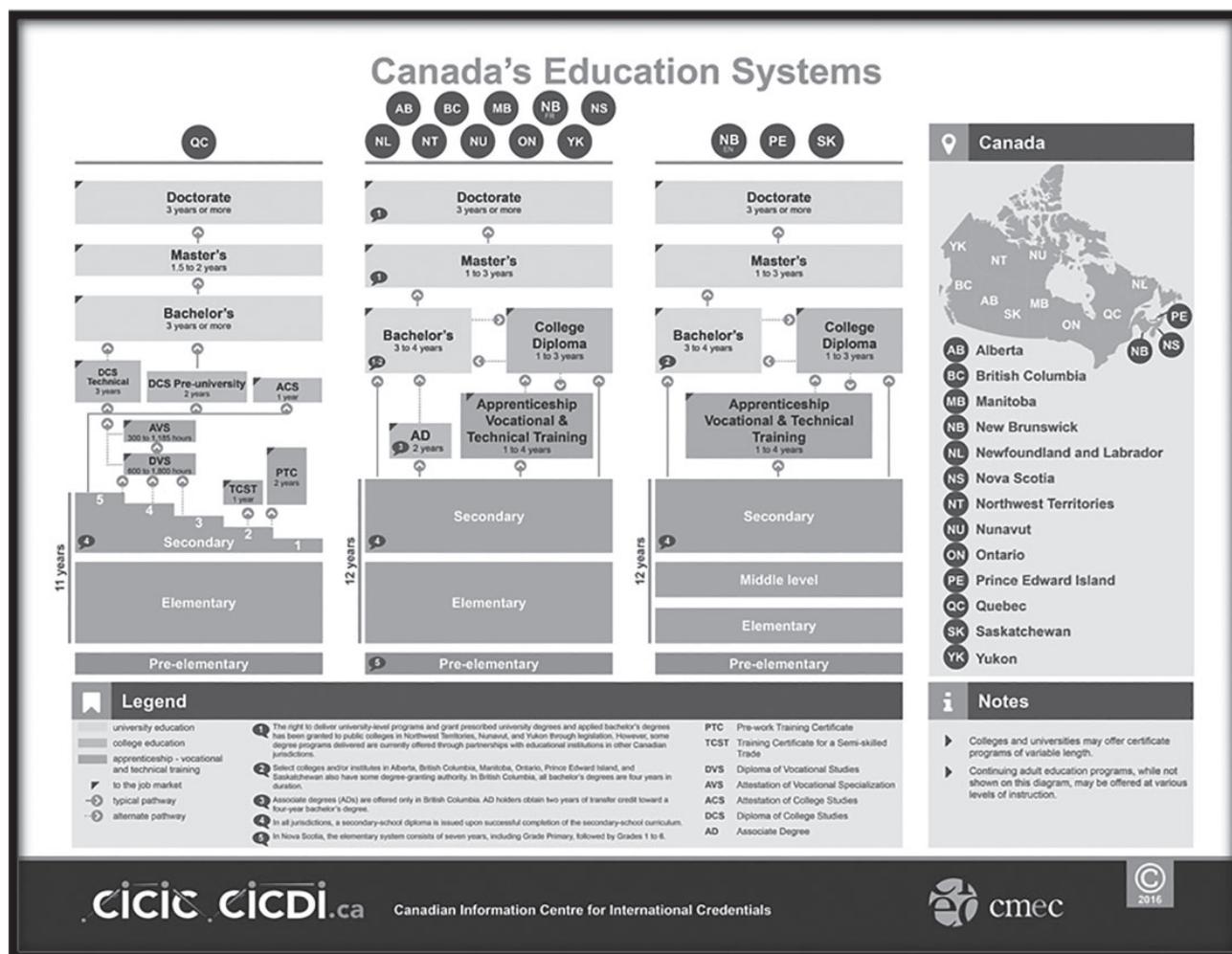


図1 カナダの教育制度

(Canadian Information for international Credentials のウェブサイトより) ¹⁾
https://www.cicic.ca/1130/an_overview_of_education_in_canada.canada

2. カナダの教育制度の概観

カナダの教育制度は、日本の文部科学省のような教育省が全体をコントロールするのではなく、アメリカと同様、各州政府によって、規制やカリキュラム等の要件が定められている。カナダの義務教育の期間は、10の州と3の準州、計13の州政府によって6歳から15歳、あるいは7歳から16歳までの10年間となっているが、一部の州は、17歳までとしているところもありかなりばらつきがある。また、プレエメンタリースクールで就学前教育を3歳または4歳から始めている。Council of Ministers of Education, Canada が公開している Canada's Education Systems が示すとおりである。【図1】

カナダにおける教育制度は、米国同様、国内の住民の学費などは、低く設定されていることはよく知られている。州内または国内の学生が学費面で優遇されている反面、留学生を受け入れ、高額

な学費収入を得ることで収支バランスをとる構造となっている。留学生とカナダ国民とではどのくらい違っているのをビクトリア大学の授業料と費用 (Tuition fee estimate) ²⁾ のページで実際に見積もってみた。

まず、大学院生 (Graduate Students) の場合で、カナダ国民または在留者 (Canadian citizen or permanent resident) か、それとも留学生 (International student) かの違いによってそれぞれの学費でどのくらい差があるか、学費コストを見積もる (Estimate your tuition fees) と、結果は次のとおりである。

プルダウンメニューから、グローバルビジネスプログラムを選択してみると、次のとおり、一覧表で表示がされる。

(Graduate Master of Global Business program)

Estimate in Canadian dollars

Graduate Master of Global Business program
Canadian student or permanent resident

Fee	One term
Fee Installment	\$7,762
MGB Program Fee	\$1,115
Total tuition and ancillary fees estimate	\$8,877

International student

Fee	One term
Fee Installment - International	\$12,830
MGB Program Fee	\$1,415
Total tuition and ancillary fees estimate	\$14,245

結果、留学生の学費はカナダ国籍を持つ学生やカナダ在住の学生と比較し、ほぼ倍額を支払うことになる。勿論、カナダでは留学生向けの奨学金も充実しているが、計算上、現在の為替では、年間の学費が約 330 万円となる。留学生受け入れによる安定的な収入確保だけでなく、多様性を重視することは、世界的に推進されているが、長年取り組んできた、この留学生受け入れ施策が、ビクトリア大学をはじめとするカナダの大学の収入の安定だけでなく、ダイバーシティの推進にもつながっているとも言えよう。

3. ビクトリア大学の紹介

今回調査を行ったビクトリア大学の特徴について触れておきたい。

語学研修が始まってほどなくして、プログラム参加の対応を担当していただいていた English Learning Center (ELC) で日本をはじめ世界各国からの留学を希望する学生等の受け入れや留学協定校からの学生や教職員の受け入れを担当している International Recruitment Coordinator の Rena Fowler 氏を訪問した。その際に、オフィスにあった学内広報誌の記事で記憶に残ったことが 2 つある。

まず、一つ目は、ビクトリア大学 University of Victoria (UVic) が 2023 年 6 月 1 日 Times Higher Education (THE) Impact Ranking において、環境部門 SDGs の 17 の項目において、世界 9 位、カナダで 3 位にランキングされていたことである。様々な取り組みが評価されての結果であるということであろうが、その一つとして、大学として、Indigenous plan (先住民計画) を表明し、先

住民のことをその土地や歴史とともに学ぶ、そしてそれは大学にくるすべての学生や教職員が対象であるという、また先住民への差別や偏見に対処するための研修プログラムを提供しているとのことであった。詳細は、ビクトリア大学の Web サイトで詳細に紹介されている。

二つ目は、参加したプログラムを提供している The English Language Centre (ELC) が第 14 回の BCCIE (BC Council for International Education) というカナダのブリティッシュコロンビア州での国際教育の推進と支援を行っている機関で、Outstanding Program in International Education Award という賞を受賞した記事である。受賞理由が、“excellence in delivering high quality and innovative programming” とのことであり、様々なプログラムが評価されているということである。Rena Fowler 氏によれば、現在注目を集めているのが、アジアの国、特に台湾の大学の教職員が英語で英語以外の専門の授業を行うにはどうすればいいかということについて、短期間で学べるプログラムを提供しているとのことであるが、日本の大学からの参加はほとんどないとのこと、国際化という点で、英語で行う授業を充実させて、英語だけで学位をとるための取り組みが台湾ではすでに開始されているが、その内容をさらに充実させようとしている。もちろん、日本においても、関東では、東京大学、上智大学、慶應義塾大学、早稲田大学など、また関西では、立命館大学、同志社大学など、学部レベルと研究科レベルでの英語の授業だけで修了できるコース等が開設されている。それぞれ英語授業の FD は、重要であろう。なお、ビクトリア大学に滞在中に、台湾のある大学からの研修参加者一行の見学ツアーに出くわしたが、スタッフも併せて約 20 名規模であり、受け入れ側だけでなく、派遣側の大学にとっても重要であることが感じ取れた。

3.1. PD (プロフェッショナル・ディベロップメント)

Rena Fowler 氏を訪問したのは、ビクトリア大学の FD の状況について調査したいので、担当部署にインタビューできないかと、相談をもちかけたためであった。しかし、残念ながら私の研修プログラムの開始まもなく、Fowler 氏も含めて、夏の在宅勤務になり、サービスの提供が中止してしまうこと、基本的に ELC と大学の学部等とは別組織となっており、仲介はできかねるというものであった。しかし、Fowler 氏によれば、ビクトリア大学では、可能な限り情報は Web を通じて開示し

ているから、まずはそれを活用してもらいたい。そのうえで、何か不明なことがあれば、できる範囲で協力するということであった。そしてその際、Fowler氏は、ビクトリア大学ではFD（ファカルティ・ディベロップメント）という制度は聞いたことがないと話された。そして、FDの意味を説明すると、それは、私たちだけでなく、カナダでは一般的にPD（プロフェッショナル・ディベロップメント）であるということを教えていただいた。プログラム開始後ほどなくしてのFowler氏との面談を通して、カナダはもちろんアメリカにおいても大学だけでなく、医療現場、法曹界などにおいてもこのプロフェッショナル・ディベロップメントは、認知されており、それぞれの職業に就いた者は、専門職として自らのスキルや知識の向上は、プロフェッショナルがプロフェッショナルとして存在するためには必要な営みであるということと理解した。実際に、図書館サービスのチャットボットに「ビクトリア大学のFDを教えてください」と質問したら、PDのサイトを紹介された。

では、具体的にビクトリア大学のPDが、どのような仕組みになっているのかをWebで提供されている内容を確認していく。

3.2. ビクトリア大学のWebサイトの概観

ビクトリア大学のWebサイトから、ひとつは、人事課（Human Resources）が提供している情報の項目ともう一つはプロフェッショナル・ディベロップメントについて着目した。

まず、人事課が提供している項目に、構成員向けのコンピテンシーモデルを設定していることに注目した。

大学のトップページ画面から、「Info for...」から、Faculty & Staffのページにアクセスすると、次の4つのカテゴリにさらに分岐されている。

① Staff postings というスタッフ募集のサイト、② Faculty postings という学部の教員の募集サイト、そして、③ Human Resources つまり、人事課が提供しているサイト、そして最後に④ Faculty Relations という教員の労働契約に関するサイトの4つである。そのうち、③ Human Resourcesでは、構成員へのサービスを中心にさらに3つの項目① Join the UVic team ② Staff resources ③ Manager support の3つのサービスがWebサイトで提供されている。3つのサービスのうち、① チームに参加する（Join the UVic team）というタイトルで募集中のポジションへの応募方法や、大学の歴史等にリンクされている。そして、② Staff resources つまり教職員向けの情報提供サイ

トでは、福利厚生ハンドブック、労働契約、メンタルヘルス等の説明がされている。最後に、③ Manager supportという管理職向けのサイトも提供されており、ここでは、業務の評価 Job evaluation、業務内容 Job description、業績や能力開発 Performance & development、また、新入職員の受け入れ Onboarding new employees では、新任スタッフの教育やオリエンテーションについて詳細に説明がされている。この Human Resources が提供している資料から、興味のある資料を見つけることができた。それは、構成員の教育プログラムのなかに、ビクトリア大学のCOMPETENCY MODELを設定し、管理職リーダーや教員だけでなく、すべての構成員が活用できると示されている。提示されている資料によれば、SUPERVISOR'S GUIDE TO USING UVIC COMPETENCIES が公開されており、20ページにわたるマニュアルにもCOMPETENCY MODELの説明があった。



図2 ビクトリア大学のコンピテンシーモデル
UVic COMPETENCY MODEL

<https://www.uvic.ca/hr/manager-support/performance-coaching/competency-model/index.php>

図2のUVicコンピテンシーモデルは、各教職員が組織内の個人の目標、役割、部門、部門、レベルに応じてそれぞれの手段によってコンピテンシーと行動を認識、実証、開発し、意図的に非階層化で表現がされている。

次に、Fowler氏に教えていただいたとおり、ビクトリア大学では、FDではなく、PDすなわち、プロフェッショナル・ディベロップメントとして、サイトで次の情報が示されている。

具体的にProfessional developmentのページで

は、次のとおり説明がある。

At UVic, we offer free learning opportunities for all regular full-time and part-time employees. Our learning program includes courses related to UVic culture, personal effectiveness, working with others, communicating clearly, and managing and leading teams.

UVic では、無料の学習機会をすべてのフルタイム（正規）雇用とパートタイムの職員に提供している。我々の学習プログラムは、「UVicの文化」、「Personal effectiveness（パーソナル・エフェクティブネス）」、「他者との協働」、「わかりやすいコミュニケーション」、そして「チームの管理と指導」についてのコースが含まれています。

ここで説明されている Personal effectiveness とは、個人が自分自身を最大限に活用し、目標を達成し、成功を収めるために、効果的な方法で行動する能力やスキルを指す言葉である。個人の能力、時間の使い方、コミュニケーションスキル、問題解決能力、自己管理能力などが含まれているという。

さらに、次の説明がつづいていく。

View our campus and sponsored programs. You can also choose one of our featured programs: キャンパスとスポンサープログラムをご覧ください。次の注目のプログラムから1つ選択することもできます

- ・ Leading for engagement/ エンゲージメントをリードする（プログラム）
- ・ mentorship program/ メンターシッププログラム
- ・ financial planning/ ファイナンシャルプラン

そして、Campus and sponsored program として提供されているプログラムは、次のようにリストアップされている。

表1 Campus and sponsored program

Campus training
<u>Brightspace, Learning and Teaching Support and Innovation</u>
Communications + Marketing workshops
Continuing Studies
Employee learning calendar
Emergency Planning
Equity and Human Rights training and support
Executive programs, Peter B. Gustavson School of Business
FAST Finance training
Health and wellbeing training
Occupational Health and Safety training
University Libraries
University Systems training
UVic Careers system: training and support
Sponsored programs
Center for Higher Education Research and Development (CHERD)

これら、さまざまなサポートプログラムリストから、一部の詳細を確認したい。

① Brightspace, Learning and Teaching Support and Innovation (LTSI)

ここでは、ビクトリア大学の授業運営のためのプラットフォームであるブライトスペースを使ったワークショップやイベントが紹介されている。

なお、のちに紹介する、私のクラスの担当教員の2名のうち、1名がブライトスペースのプログラムに参加し、実際に英語の授業で活用していた。

これらの主要なツールとその機能については、次のとおりの説明がサイト内でされている。

- Brightspace: ビクトリア大学の学習管理システム。このシステムを授業におけるハブとして使用し、他のテクノロジーシステムを Brightspace のなかで使用することができる。
- Zoom: リアルタイムのオンライン講義、オフイスアワー、Web 会議用のツール。
- Microsoft Teams: クラス内のコラボレーションとコミュニケーションのためのプラットフォーム。
- Crowdmark: 講師が TA 等他者と共同で使うことができる作業効率性の高い共同採点プラットフォーム。
- Echo360: Brightspace 内で動作する ビクトリア大学のビデオ コンテンツ管理プラットフォーム。

② Health and wellbeing training

このサイトでは、月間の教職員やスタッフの健康にまつわる行事紹介がおこなわれている。そし

て提供されている情報は、大学内のものだけでなく、例えば、国連の「女性に対する暴力撤廃のための国際デー (International Day for the Elimination of Violence Against Women)」についても紹介がされている。

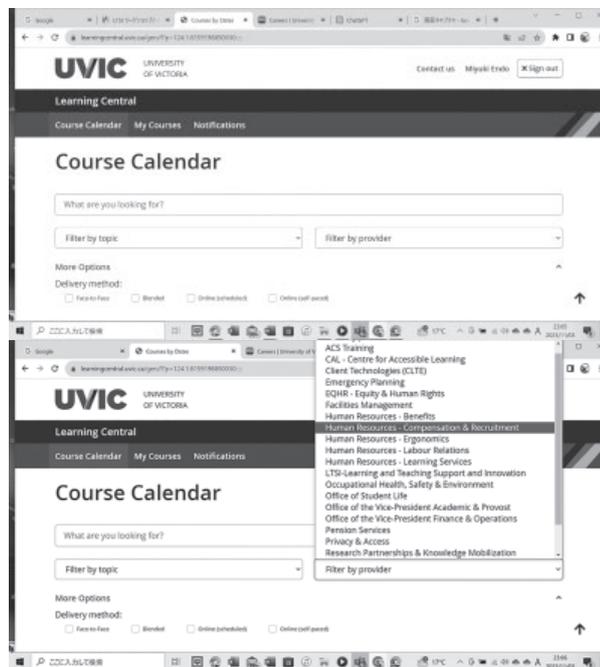


図3 コースカレンダー

<https://www.uvic.ca/faculty-staff/>
のサイト(上)から、Course Calendarに
アクセスし、プルダウンメニューを表示(下)

コースカレンダーのフィルタリング機能を活用して、トピックを選定することや、提供部署をフィルタリングすることでも確認することができる。10月段階では、「反転授業のワークショップ」、「コミュニケーション能力」など、学びたいものを選べるが、学生もこのツールを使って、学生参加可能なプログラムを選択できる。たとえば、「大学における「AIリテラシー」」というプログラムである。

以上、ビクトリア大学のWebサイトを概観したところ、採用形態にかかわらず、いつでもどこでも、大学が採用するすべてのスタッフが必要とする知識の提供がなされている。有本(2005)によれば、FDは広義と狭義の解釈が成り立ち、狭義のFDは、教育の規範構造、内容、カリキュラム、技術などに関する教授団の資質の改善を意味し、広義のFDは、広く研究、教育、社会的サービス、管理運営の各側面の機能の開発であり、そして組織体と教授職の両方の自己点検・評価を含んでいるという。ビクトリア大学のPDは、スタッフそれぞれの資質向上が、相互に作用しやがて組織の

力となり、その一つの成果が国際教育の推進と支援にかかわる受賞につながったともいえる。

3.3. 教師へのプロフェッショナル・ディベロップメントに関する質問とその回答結果

滞在期間中に、参加した語学研修プログラムのクラス担当の2名の教師にプロフェッショナル・ディベロップメントについて、簡単なアンケートを実施したいとお願いしたところ、快く応じていただいた。調査方法は、授業終了後にメールで8月16日に依頼し、即日または翌日に回答を得た。その結果を、表2でまとめている。

教員Aと教員Bを比較すると、回答としては、両教員とも Campus and sponsored program (キャンパストレーニングプログラム)にどちらも参加したことがあるという回答であった。では、どのようなプログラムに参加したことがあるかという質問に対して、教員Aと教員Bとの違いについて述べる。教員Aは、その回答から、テスト管理やクラス分けのための評価方法などについての研修であり、

所属する部門から要請であったプログラムのことであった。一方で、教員Bの回答は、実際に進んで参加したプログラムについての回答であった。教員Aと教員Bはどちらもクラス内ではアクティブラーニングを取り入れ、教室の講義内容について、それぞれ工夫をこらし、それぞれ英語の4技能を向上させるための課題を出していた。また、教員Aのクラスは、語学に加えて、カナダの文化や歴史についても学ぶクラスであった。しかし、クラス運営上、教員Aはビクトリア大学の学習管理システム Brightspace をまったく利用しておらず、一方で、教員Bは、Brightspace へのアクセス方法を授業の初日から説明し、クラス内で課題を出すときは、必ず同時に Brightspace にもアップされていた。そして、成績評価の方針を明確に示し、それも Brightspace 上に示してくれていた。教員Aのように Brightspace を使っていない先生は、別のクラスにも存在しており、決して、100%活用されておらず、また、その状況から推察するに活用が義務化されていないということである。

すでに私のプログラムは終了しているのだが、現在でもこの Brightspace にアクセスすることで、研修中の振り返りが可能となり、英語学習のモチベーションの維持にも寄与している。

表2 教師への質問とその解答結果

	教員 A	教員 B
質問 1)		
<p>Have you participated in any of UVic's Campus training services or programs? (Yes/No)</p> <p>これまで、Uvic が提供するキャンパストレーニングプログラムに参加したことがありますか？</p>	<p>Yes/ はい</p>	<p>Yes/ はい</p>
質問 2)		
<p>Which program did you attend?</p> <p>どんなプログラムに参加しましたか？</p> <p>And could you briefly describe the service or program you attended and the primary goals you aimed to achieve through it?</p> <p>参加したサービスやプログラムと、それを通じて達成を目指した主な目標について簡単に説明していただけますか？</p>	<p>I attended training for administering speaking and writing tests for new ESL students at the English Language Centre in Continuing Studies.</p> <p>ESL の新入生のためのスピーキングとライティングのテストを管理するためのトレーニングに参加しました。</p> <p>In a group setting we observed student speaking tests and analyzed their written tests: using rubrics, we analyzed and evaluated their speaking and writing skill levels to determine which level of ESL classes they should be placed in.</p> <p>グループの設定では、学生のスピーキングテストを観察し、筆記試験を分析して設定しました。ルーブリックを活用し、スピーキングとライティングのスキルレベルを分析、評価し、(生徒を) どのレベルの ESL クラスに配置するべきかを決定しました。</p>	<p>We have regular professional development workshops in the English Language Centre, and I have attended many of these, on topics ranging from the technology in the computer labs to how to teach vocabulary in the classroom. The division of Continuing Studies also offers workshops, and I have attended some of these, including a workshop on video editing with iMovie and one on publishing with WordPress.</p> <p>イングリッシュ・ランゲージ・センターでは定期的に専門能力開発ワークショップを開催しており、コンピューターラボのテクノロジーから教室での語彙の教え方まで、さまざまなトピックについて多くのワークショップに参加しました。継続学習部門 (division of Continuing Studies) ではワークショップも開催しており、iMovie を使ったビデオ編集や WordPress を使ったパブリッシングに関するワークショップなど、いくつかのワークショップに参加したことがあります。</p>
質問 3)		
<p>How would you rate the effectiveness of the professional development service or program you participated in, in terms of its impact on your professional growth and teaching effectiveness? (Scale: Very Effective, Effective, Neutral, Ineffective, Very Ineffective)</p> <p>あなたは、プロフェッショナルディベロップメントのサービスやプログラムに参加して、あなたの専門性の向上や教育効果への影響の観点から、どのように評価しますか？ (非常に効果的、効果的、どちらでもない、効果的でない、全く効果的でない)</p>	<p>I would rate it as very effective, because trainees were able to share ideas and get feedback during every step, and because I became fully prepared to conduct tests afterward.</p> <p>研修生がすべてのステップでアイデアを共有し、フィードバックを得ることができ、その後のテストの実施に完全に備えることができたため、非常に効果的だったと評価します。</p>	<p>Most of the workshops I have attended I would describe as Effective.</p> <p>私が参加したワークショップのほとんどは、効果的でした。</p>
質問 4)		
<p>If no, could you give brief explanations or reasons?</p> <p>いいえの場合、簡単は説明や理由を教えてください</p>		<p>I didn't get much out of the WordPress workshop because I was not prepared (I had not set up an account with WordPress for the workshop and when the time came I tried to use another account, which didn't work).</p> <p>WordPress ワークショップでは、私があまり準備ができていなかったため、そこから多くを得ることができませんでした (ワークショップ用に WordPress のアカウントを設定していなかったため、別のアカウントを使用しようとしたが、うまくいきませんでした)。</p>
質問 5)		
<p>Do you have any comments, suggestions, or recommendations regarding professional development at UVic?</p> <p>UVic での professional development に関するコメント、サジェスション、レコメンデーションはありますか？</p>	<p>Our Curriculum Coordinator at the ELC, always tells us about new professional development opportunities and explains them well. There is also a large bulleting board in our teachers' room, which displays information about a variety of Professional Development opportunities.</p> <p>ELC のカリキュラムコーディネーターは、常に新しい専門能力開発の機会について教えてくれ、それをうまく説明してくれます。また、教師室には大きな掲示板があり、さまざまな専門能力開発の機会に関する情報が表示されています。</p>	<p>I like it best when a teacher shares practical ideas that I can use or adapt in my own classes.</p> <p>先生が自分のクラスで使用したり適応できる実用的なアイデアをシェアしてくれることは、最もいいことであると考えます。</p>

4. FDの推進に向け、 ビクトリア大学から学べること

以上、ビクトリア大学におけるプロフェッショナル・ディベロップメントについて紹介してきたが、あくまで、Webサイトで提供されているプログラムを確認し、ELCの2名の担当教員に活用方法を確認してきたのみであり、実際にどのくらいの割合で活用されているか、またそれらの活用状況が評価につながっているかなど、もっと深く掘り下げての調査が実施できなかったことは、本稿の課題である。また、カナダにおけるビクトリア大学というひとつの大学の取り組みであり、大学がおかれた環境やなにより大学運営の仕組みにも違いがあるため、よい取り組みとして日本の大学はもちろんおなじカナダの大学であっても同様の取り組みが実施できるかどうかはわからない。しかしながら、今後本学がFDを推進していくにあたって、参考にできると思われることを三点に絞って挙げておきたい。ただし、あくまで個人の見解であることを念のため申し添える。

4.1. 学内の研修リソースの一元化

現在、本学において、研修会と名の付くプログラム等を提供している部署は、教育支援研究開発センター、ダイバーシティ推進室、人権センター、総務部人事担当、研究機構など、設置目的や役割は異なるが、いずれの部署においても重要な研修会を実施している。また、それぞれの部署が研修会を実施した後に、動画配信によって、後日視聴による振り返りや当日欠席者への対応などがなされている。しかし、それらの対応はそれぞれの部署が個別で行っており、研修参加者は、それぞれの研修にアクセスすることが必要である。しかし、ビクトリア大学では、これから実施されるすべての研修が、コースカレンダーにトピックと提供部署をキーワードにして、フィルタリング機能もあるので、効率よく選択し、個人レベルはもちろん、部署レベルの研修計画を立てることができている。本学でも、各部署が提供しているリソースをアーカイブ化し一元化することができれば、年間に提供される研修計画を示すことで、個人や所属が、タイムリーに大学全体の研修プログラムから受講が必要な研修を選択することが可能になる。そして、これらの研修計画を単に学内で集約させるだけでなく、外部が提供している研修メニューも組み込めば、個人が学びたいことはもちろんであるが、所属（学部や事務室単位）の方針に沿った研修計画を立てることが可能となる。こ

のような取り組みは、国内ではあまり見かけないことから、たとえば各所属や各学部のFD研修計画にまずは活用してもらい、個人の自己啓発も含めて、「学び」のサイクルを構築することで、学生にも、教職員も学んでいるというメッセージになるであろう。

4.2. 研修の対象者を専任に限定しない（非常勤教員や特定職員の研修への参加促進）

非常勤教員が研修等に参加するのは、手当支給のことを考慮すべきであるという話に発展するかもしれないが、研修内容にもよるが、基本専任非専任に関わらず、自主的な参加方式とし、だれもが自分の興味のあるトピックにアクセスできるようにすることで、大学構成員全体のスキルの底上げが期待できる。

2020年の4月は、日本の多くの大学が4月に授業を開始できなかったが、本学の場合は、連休明けから春学期授業が全面オンラインでスタートした。授業開始までの間は専任教員、非常勤教員の多くの方がこれまで経験してこなかった授業のスタイルを始めることとなった。振り返ると、教育支援研究開発センターでもセンター長自らが、オンライン授業で基本となる操作方法などを録画し提供していたが、よりサポートの必要性が高かったのは、非常勤教員の方々であった。数人の非常勤教員の方と話をすると、大学によって、オンライン授業のツールが異なっており、非常に苦慮していたという。再びパンデミックのような事態が起きても起きなくても、大学として、つねにアクセスできる研修メニューのラインナップを充実させておくことは、教職員のスキルアップが期待でき、しいては学生に対してよりよい授業やプログラムを提供するということにもつながる。

4.3. 大学が構成員にもとめるコンピテンシーを明確にし、研修プログラムを通じての提供

本学では、大学として学生像を掲げ、学生に対して「8つの資質・能力」を示し、それらを卒業時に身につけていることが重要であるということ今年度から学生や社会にも示している。そのため、昨年度のFD/SD研修会では、前半に取り組み説明や8つの資質能力の動画を作成し全教職員が視聴した。しかし、ビクトリア大学をはじめ、欧米ではコンピテンシーベースの教育が、大学だけでなく、初等中等レベルにおいても提供されている。そして、ビクトリア大学では、このコンピテンシーを組織の構成員が学ぶべき事項として、明示し、そのための研修会や資料を適宜提供してい

る。

確かに考えてみれば、教える側の教員や運営する側の職員がこのコンピテンシーを単に言葉で説明することができるにとどまらず、ビクトリア大学のように自分達のコンピテンシーとして、「習うよりも慣れろ」のイメージで構成員自らが身に付けているのであれば、より学生に伝わるのではないだろうか。

5. おわりに

実は、約 15 年前にも職員海外研修制度のマイプランを活用して 2 週間米国ボストンに滞在した。この時は、修士論文の作成にあたって必要な調査であり、事前の準備も周到であったが、今回は感染症やテロ等のリスクを避ける必要があり、急激な円安という為替相場の影響もあり、行先を決めるのに時間がかかってしまった。期待していたビジネスのクラスが開講とならなかったため、100%の満足度は得られなかったが、3 週間の間、クラスの学生さんと一緒にグループワークに取り組み、無事最終日にドレスアップしフェアエルパーティーで修了書を受け取ることができたことは、貴重な経験であった。クラスメイトの一人は韓国からの参加者であったことから、クラス内では必然的に英語のみのコミュニケーションであった。また、16 名全員がそれぞれの名前を覚えるまでに時間はかからなかった。それは、授業内での徹底的なアクティブラーニングのおかげである。とにかく質問する。聞いた内容を別のクラスメイトや教師にシェアする。しかもテンポよくこなさないと他の人に迷惑がかかってしまう。そして、教師側もアクティブティーチングという言葉があれば、その言葉を使いたいくらいである。毎回の授業内で、教室の中を動き回って私たちの様子を観察し、ときにはグループ内に割って入ってきて、しっかりと学生の会話をチェックし、時には文法上の間違いを指摘し、生徒それぞれの修得状況やレベルを確認しながらメモをとっているのである。日本人のクラスメイトはもちろん、韓国からきていたクラスメイトからは、徹底的な繰り返しの練習は、英語を修得するうえで、大変効果的であったという感想を聞いた。関東の大学の国際関係系の学部には所属する学生さんから、ここまで徹底的ではないが、似たような授業は経験したことがあると答えてくれたのは、16 名のうち 1 名だけであった。学生さんたちからは、特にクラス内の生徒同士の関係性の構築という点において、日本の大学では経験できない体験であったとのこと

で、私はホームステイであったことから経験できなかったが、ほとんどの学生が寮に滞在しており、寮でのサポートをする現地スタッフから、毎晩のようにアクティビティが提供され、活きた英語を使う機会があったという。

あつという間の 8 月の 3 週間であったが、日本にもどってきたら、当然日本語の世界にもどってしまったているが、できるだけカナダで得られた貴重な経験を業務でも活かし、英語学習を継続していきたい。

注

1) CICIC.ca は、正式名称を The Canadian Information Centre for International Credentials といい、カナダ政府の教育会議 (CMEC) 部門のひとつであり、UNESCO の国境を越えて提供される高等教育のガイドラインに批准することを目的として、1990 年に設立された機関である。カナダ全土および各州、準州の地域に属する高等教育に関する研究、学位認定に関する情報を提供している。

2) ビクトリア大学 カナダ 学費コスト計算サイト <https://www.uvic.ca/graduate/finances/tuition-costs/index.php#ipn-estimate-your-tuition-fees> 日本の各大学でも教育情報の一つとして、授業料、入学金などが公表されているが、計算サイトによって、授業料コストが明確となっていることは、海外からの留学希望者を誘致するという観点から有効であると考えられる。

参考文献

- 安藤幸一 (2009) 10 「FD (Faculty Development) を考える - 日本型 FD の問題点と方向性 -」『大手前大学論集』
- 有本章 (2005) 『大学教授職と FD アメリカと日本』東信堂、東京
- The Canadian Information Centre for International Credentials. Canada's Education Systems. Retrieved Nov. 1, 2023, from https://www.cicic.ca/1130/an_overview_of_education_in_canada.canada
- 平田淳 (2020) 「カナダの「開かれた」学校づくりと教育行政」東信堂、東京
- 文部科学省国立教育政策研究所・JICA 地球ひろば共同プロジェクト (2014) 「グローバル化時代の国際教育のあり方国際比較調査 最終報告書」 https://www.jica.go.jp/cooperation/learn/report/comparative_survey01.html (取得 2023.10.28)
- 佐藤浩章 (2023) 『大学教員の能力開発研究』玉川大

学出版部, 東京

佐藤浩章 (2023)2023年度全国私立大学FD連携フォーラムシンポジウム<基調講演>「これまでのFDとこれからのFD—FDの推進と実践に向けて」

University of Victoria. Competency Model. Retrieved Nov. 1, 2023, from <https://www.uvic.ca/hr/manager-support/performancecoaching/competency-model/index.php>

Capability Development System for University Constituents at the University of Victoria: A Focus on Professional Development

Miyuki ENDO¹

This paper presents the results of an investigation conducted on the subject of Faculty Development (FD). I utilized the staff overseas training program to inform the results outlined in this report, as part of my current assignment. Personally, I had the opportunity to participate in a three-week language training program at the University of Victoria, in Canada. By reviewing the University's website and conducting interviews, I came to understand better the structure and the type of participants accessing FD. I found that it operates under the name of Professional Development (PD) and is an organizational initiative. In addition, I conducted a survey to garner feedback on the effectiveness of these training programs from the participant perspective. It is however important to note that limitations in sample size and information may affect the adequacy of my report. Nevertheless, I endeavor to share my personal insights for future implementation of FD and staff development (SD) programs at our institution.

KEYWORDS: Faculty Development, Professional Development, Competency, Training Program, University of Victoria

2023年12月5日受理

¹ Center for Research and Development for Educational Support Office, Kyoto Sangyo University